

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 石動高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動（生徒の学習意欲の喚起と基礎学力の伸長及びICT活用）	
重点課題	①②生徒の探究心を喚起する「主体的・対話的で深い学び」を実践し、さらには家庭における学習や探究を促進するために、ICT機器や教育用クラウドサービス等を積極的に利用し、生徒の学びに向かう意欲を高める。 ③検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力を育成する。	
現 状	①②生徒一人につき1台が配備されたタブレットと教育用クラウドサービスの活用により、すべての生徒がこれらを使いながら授業に向かう環境が整っていたが、令和7年度入学生からは各家庭にて個人所有の端末を用意することとなった。教員にはこれまで以上にこれらの利用を通じて、授業において、生徒対生徒、教師対生徒の「主体的・対話的で深い学び」を重視した改善を図り、家庭においても積極的にICT教材による学習や探究活動に取り組ませることが必要である。 ③商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にも繋がっている。	
達成目標	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業等においてタブレットや教育用クラウドサービスを活用した教員の割合 ②授業や家庭学習等でタブレット及び教育用クラウドサービスを週2回程度利用した生徒の割合	③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 (1)簿記 (2)ビジネス文書 (3)ビジネス情報 (4)プログラミング (5)商業経済 (6)珠算 (7)電卓 (8)英語 (9)財務諸表分析・財務会計・管理会計のうち1検定以上
	① 80% ② 60%	10人以上（卒業年度）
方 策	・互見授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現について、タブレット等を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 ・生徒に効率よく家庭学習を行うアイテムとしてタブレットや教育用クラウドサービスの積極的な利用を促す。	
	・朝や放課後の補習授業を実施する。 ・商業関連部活動を充実させる。 ・3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 ・教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。	

令和8年度 石動高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	・ほとんどの生徒が自分のスマホを持っており、便利であるがためにスマホ中心の生活になっている生徒も多い。 ・スマホ依存、学力低下、睡眠不足、または自他の個人情報や安易に SNS に掲載したり、ネットルール・マナーを守らなかったりするなど、スマホに関連したトラブルが起きている。 ・本校では、ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は近年少なくなっており、令和4年度、5年度は0名、6年度は1名、7年度は0名であった。 ・毎年生徒会でネットルール4箇条を作成し、生徒主体でスマホやインターネット使用に関するルールを設定している。 ・スマートフォンの自己管理については、各自の貴重品ロッカーで管理することになっているが、6年度は46名、7年度は28名と一定の生徒によるルール違反、不正使用を確認している。 ・個人ロッカーでのスマホの自己管理をルールとしているが、昨年度のアンケート調査では7割の生徒はロッカーで管理しているが、残り3割の生徒はルールを守っていないということが明らかになった。 ・生徒たちの中には様々な問題を抱えながら学校生活を送っている者もあり、授業や学校生活に向き合うことに困難を感じているケースが見受けられる。 ・SNS を通して生徒の友人関係がより複雑になっており、問題にどのように対処すべきか悩んでいる声がよく聞かれる。
達成目標	① 授業中における個人ロッカーでのスマートフォンの管理者数：80%以上（アンケート調査） ② 生徒の心身の健康と安全を守るためのよりよい環境づくり（カウンセリング等 年10回以上、保健だより等での情報提供 年10回以上、講演会等の実施 年5回以上）
方 策	・自治委員会で生徒が主体的にルールを守れるような啓発活動を考え、実行させる。 ・アンケート結果の公表を工夫して、生徒の関心を惹かせる。 ・情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、スマホ安全教室（1学年対象）を実施する。 ・全体集会や授業、HR、インフォメーションコーナーを活用し、実際に起きている事件等の情報を伝え、被害者にも加害者にもならないために必要なことを考えさせる。 ・保護者にも協力を依頼し、家庭でスマホの使用について話し合う機会を持ってもらう。 ・スクールカウンセラーの来校予定を周知し、気軽に相談できる環境を整える。 ・生徒が中心となって保健だより作成し、生徒の目線で、心身ともに健康に学校生活を送るために知っていてほしいことや、助けになることをまとめて情報提供する。 ・外部から講師を招くなどして、安全で健康な生活を送るための正しい情報を得る機会を設ける。

令和 8 年度 石動高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	進路支援（進路選択と実現に向けた主体的な活動の支援）	
重点課題	思考力・判断力・表現力が求められる社会へ出ていくための意識改革と進路指導	
現 状	- 入試の仕組みが変わっていく中で、社会そのものも変化し続けており、学習時間の確保だけでなくその取り組み方や、学習以外の能力や態度の育成も大切である。例えば学習課題が、学校へ提出するためのものではなく、学力を身につけるために大切なものだと自覚できるようになるなど、意識の改革とそれを踏まえての実践が必要である。 - 生徒の進路希望は大学、短期大学、専門学校、就職と様々である。それぞれの生徒に適した具体的な進路目標の決定や、その実現に必要な学力をつけるために、個々に応じたきめ細やかな支援が必要である。	
達成目標	①（１・２年） 進路実現に向けて自分に必要な取り組みを考え具体的な自己目標を設定し、それが達成できる割合	②（３年） 自分の進路先に満足している生徒の割合
	70%	90%
方 策	- 大学等出張講義や研修旅行、探究活動などを通して進路について考える機会を多く設け、進路意識の向上を図る。 - 個別面談を充実させ、具体的な目標設定や実践を支援する。 - 個々の進路に合わせた指導を、学年・教科で連携して計画し、全職員で指導にあたる。 - 学習を軸として主体的な体験を増やし、社会で生きる力、活かせる力の伸長を図る。	

令和 8 年度 石動高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	特別活動 (生徒が主体的に取り組む、より充実した体験活動となるような特別活動の運営)	
重点課題	協力してよりよいものを築こうとする自主的・実践的な態度の育成	
現 状	- 部活動や体育大会・学校祭などの学校行事での活動は、集団行動を通じて自主的な規律ある習慣・態度を身に付け、生徒自らがなすべきことを考えて積極的に活動に参画する態度を養う機会となる大切な活動である。内容を精選し、常に活動の仕方を工夫しながら運営していく必要がある。 - 体育大会や学校祭などの学校行事では、多くの生徒が楽しみながら取り組んでいる様子が見られる。受け身の取り組みにならないように、生徒の声を反映させて、より目的意識を持った充実した体験活動になるように工夫したい。 - 部活動には全校生徒のうち、運動部に55.4%、文化部に29.3%の生徒が加入している。各部の特性や部員の様子はそれぞれ違うので、よりよい活動になるように各部ごとの運営方法を考える必要がある。	
達成目標	① 学校行事(体育大会・学校祭)への取り組みに対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上	
	② 部活動での活動に対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上	
方 策	- 学校行事では生徒会が主体となって、生徒の声を集約し、それらを反映させて活動を計画し、生徒主体での運営を図る。 - 限られた学校生活の時間の中で豊かな体験活動ができるように、行事の見直しや精選を行い、また生徒の創意工夫を生かせるように配慮する。 - 部活動では全体計画や活動内容等について顧問と部員が情報を共有し、意見交換しながら、個人や集団の実態に応じて具体的な目標を設定し、活動を行う。 - 学校行事や高体連・高文連主催の各種大会等後に取り組みに関するアンケートを実施し、その振り返り結果を踏まえて以降の活動内容を検討し改善を図る。	